

第 4 グループ

令和 元 年度 第 2 回 議事録

【年間テーマ 接遇（職員教育・指導）】

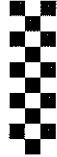
令和 元 年 8 月 25 日提出

日付	令和 元 年 8 月 10 日 (土)			
場所	TKP博多駅筑紫ロビジネス・センター301		記録者名：弥永	
出席者 (敬称略)	井上 かおり	相川 弘子	隠塚 昌弘	林田 桃香
	城戸 賢一	弥永 理香	宮崎 知夏	白川 八千代
テーマ	接遇（職員教育・指導について考える）①現状 ②今後の対策について			
結論	<p>① 現状（各施設での）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内の抑制委員会が中心となって、接遇指導 使ったらいけない用語と正しい用語を可視化 ・接遇の一場面の事例検討 ・接遇の悪い例（ロールプレイ）で見てもらい、その後ディスカッション ・伝達ノート：1週間朝の朝礼で伝達し、スタッフ全員に見てもらう 			
決定事項	<p>② 今後の対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ（画像でも可）をスタッフに観てもらい、その後ディスカッションを通して、自分たちの行動や言動の振りを行う 			
備考				
次回討論項目	次回の研修（11/9）までに各施設で実践し、結果をまとめていく。			

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@famcf.jp

(FAX.092-691-3961)



教育グループ ④

ケアの質を高める会 8月定例会 Q&A

2019/08/10

先日、事務局に以下の質問が寄せられました。届けられた現場の悩みを私たちも共有しながら、一緒に考え、善い解決策を見出しましょう。

【A病院からのQ】

①抑制は“切迫性”“非代替性”“一時性”の状況で使用することになっているが、“切迫性”ならどのタイミングで使用許可があるのか、一時性とは最高どのくらいまで使用してよいのか、辞めるタイミングがどこなのか分からない。

②限られた抑制道具の数で使用患者の優先順位が難しい。

↳ 「私たちのA」 生命の危機がおよぼすリスクの高い患者から優先していく

【私たちのA】

①について

(切迫性) 生命の危機が影響する時...術後のチューブ類を抜去する可能性
・ 注入中のフーティングチューブ、胃ろうチューブ抜去の可能性

(一時性) チューブ類 (例 OPE 留置チューブ) ・ 転倒転落のリスクが高い状況
いきなり抑制解除ではなく段階をふんで解除していく。

【B病院からのQ】

①認知症患者様の環境の変化による転倒・転落のリスクに対する対応や、コミュニケーションのとり方の工夫の具体例があれば教えていただきたい。

②M・チューブの自己抜去があり、不動手袋装着の患者様がいるが、解除へもっていくにはどういった工夫が必要か。

【私たちのA】